

南極点単独徒歩到達への第3弾
グリーンランド北極圏
750km単独徒歩行報告書



阿部雅龍
Masatatsu Abe

報告概要

お世話になっております。夢を追う男の阿部雅龍です。

2016年春はグリーンランド北極圏を単独で750km歩いて参りました。これは2017年末に実行予定の日本人として初めて南極探検をした白瀬中尉の足跡を伸ばしての南極点単独徒歩到達の為の冒険第3弾です。南極への実績作りの為にこの3年間の遠征で2000km踏破しました。

当初、今遠征では世界最北の村シオラパークから南下したサビシビックの村への往復1200km踏破予定でしたが、グリーンランドは温暖化により海氷状況が著しく、また今年は例年よりも1ヶ月以上早い解氷に阻まれました。徒歩開始22日目に足元の氷が割れ海に飲み込まれました。テント・ストーブなどの主要装備を失くし、一晚をソリの袋の中で過ごし、凍傷と深刻な低体温症に悩まされました。次の日にヘリを衛星携帯電話で呼んで、そのまま軍の病院に収容されました。凍傷は軽傷で抑える為の努力が好したか指先が少し黒くなる程度で済みました。

カナックの町に一旦戻り体調の回復を待ちながら、現地で手に入れられる装備を手配して、32日目よりルートを大幅に変更して(これは企画書の段階で考慮しており記載しています)徒歩を再開しました。ここでも例年になく異常な積雪に阻まれて順調に進むことは叶わず、解氷により途中から全く進めない事もありました。氷の状況と遠征残期間を鑑みて750km踏破で終了としました。今遠征では-40℃でも小春日和のように感じるくらいに寒さには対応できましたし、装備に関しても更に実験を重ねる事ができ、南極で想定している150kgの荷物を引いて歩きました。2017年の南極に向けて大きな自信をつかみました。

今年の遠征では、冒険の様子をスマートフォンとイリジウム衛星携帯電話を使い、冒険事務局を介してSNSで現地からリアルタイムで配信・共有しました。

次は、南極をトレーニングを兼ねた人力車による日本一周。そして南極点単独徒歩単独徒歩到達です。

今後とも何卒皆様の協力宜しくお願いします。

Keep Dreaming. Keep Smiling!!
夢を追う男 阿部雅龍



プロフィール

夢を追う男 阿部雅龍

1982年生 180cm 68kg

秋田県出身 国立秋田大学卒業



秋田大学在学中から冒険活動を始め、講演執筆・メディア・SNSなどで冒険の様子を発信・共有し、『夢を追う素晴らしさ』を共有するために活動中。

2017年に同じ秋田県出身の白瀬轟中尉の足跡を伸ばし単独徒歩での南極点到達が現在の冒険目標。その為に近年は北極をソリを引いて歩く。普段は冒険のトレーニングを兼ねて浅草で人力車を引く。

この3年で南極の為に北極圏を2,000km単独徒歩踏破。2015年の遠征では母校秋田大学の学生達へ北極から現地イヌイット、現地教師達とビデオ通話を介して出前授業を行った。

著書に学校推薦図書『次の夢への一歩』角川書店がある。

冒険事務局『人力チャレンジ応援部』<http://jinriki-support.com/>

冒険事務局 人力チャレンジ応援部



「冒険」という熱い夢を追いかけるチームの一員として、世界の冒険史に日本人の足跡を残し、伝えることを目的とし設立。チャレンジャーの広報・資金調達を主な役割する。さらに、冒険家やチャレンジャーと共に、「自然とのふれあい」や「冒険のおもしろさ」を学び、そして「人間本来のチャレンジ精神」を育むための、冒険学校の設立を目指す。

<http://jinriki-support.com/>

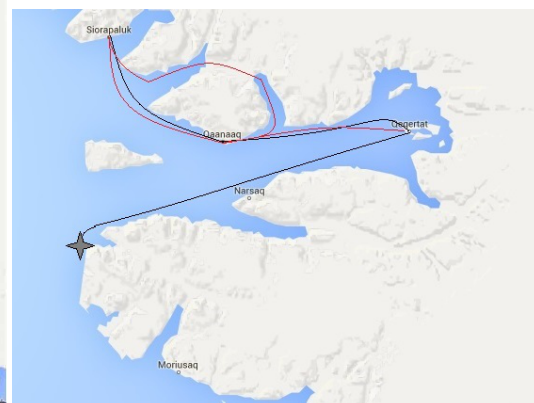
2016年遠征踏破ルート



北米大陸俯瞰地図
黒丸: 冒険範囲



変更前徒歩ルート
赤線部往復



変更後徒歩ルート
黒線部 : 救援前(星部墜落地点)
赤線部 : 救援後

冒険日程

2月10日	羽田空港から日本出国→フランクフルト→コペンハーゲン→カンガルシュア→イルリサット
2月12日～2月17日	イルリサットにて飛行機待ちをしながらトレーニング→カナックへ
2月17日～2月25日	カナックでヘリコプター待ち、及び食料調達。
2月25日～3月2日	世界最北の村シオラパルクへフライト。現地最終準備とトレーニング。
3月3日～3月24日	シオラパルクを出発。22日目である3月24日に海に落ちる。
3月25日～4月2日	ヘリを呼びチューレ空軍基地の病院に収容後。カナックで静養。
4月3日～5月23日	カナックを中心としたエリアを歩いた。
6月1日	カナック発コペンハーゲン経由で日本へフライト。
6月4日	羽田空港に帰港 日本帰国

グリーンランド遠征支出報告

遠征支出

1デンマーククローネ=18円計算

支出		※装備品提供・事務局運営費の金額は除く
航空券購入費	593,378	航空券合計金額 往路:羽田-フランクフルト-コペンハーゲン-カンガル シュア-イルリサット-ウパナビック-カナック-シオラパルク 復路:上記に逆順
荷物超過費	152,428	飛行機での荷物超過
装備品購入費	602,692	追加購入装備品
宿泊費	187,160	グリーンランドでの宿泊費
通信費	93,681	イリジウム衛星携帯電話通話・インターネット使用費
郵送料	111,184	現地への国際郵便費
食費	144,528	徒歩行80日分食費含む
交通費	108,730	日本国内で装備品回収・ミーティング移動費、
雑費	210,196	備品購入など
計	2,188,070	※装備品提供・事務局運営費の金額は除く

グリーンランド遠征 750km の様子



出国。資金を浮かす為、
外国の空港の床で夜明かし



乗り継ぎのグリーンランド
イルリサットにてトレーニング



世界最北の村・シオラパルク
いつも子供たちが遊びに来た



150kg のソリを引いて歩く(南極想定荷重)



シロクマ対策のショットガン
護身用保持は認可されている



-40℃で口元が凍り付く



海氷上のキャンプ



海に落ちた後一晩を
ソリの中で過ごす



遠征終了。皆様の応援に感謝。



休養後ルートを変えて徒歩再開
氷の割れ目をジャンプして渡る事も

協賛企業様一覧(順不同敬称略)

協賛

- 株式会社 finetrack

物資提供

- 株式会社 finetrack
- 株式会社モチヅキ
- ソニー株式会社
- 株式会社ソネ
- セイコーウオッチ株式会社
- 廣瀬産業株式会社

アウトドアウェアの提供・開発
ストーブ・マットレスなどの提供
カメラ ActionCam 等の提供
スキー・スキーシール・ショベルなどの提供
時計の提供
フリーズドライフードの提供

冒険のロゴデザイナーについて



岩手県盛岡市在住のエクストリーム・ペインター・TAKA がデザインしたロゴ。

TAKA(松嶺貴幸):1985年生まれ。16歳までフリースタイルスキーを志す。転倒事故により頸椎を骨折、脊髄を損傷し四肢麻痺(両手両足が動かない)となる。その後、マウスペインティングによるアート活動を始める。

一般社団法人ランプアップいわて代表

<http://takayuki-m.com/>

母校・国立秋田大学学生との共同研究



昨年一昨年の遠征に引き続いての現役学生との共同研究。冒険と伝統と教育を結びつけるプロジェクト。

http://www.mono.akita-u.ac.jp/act_sub02.html

学生達が主催する「KAJIYA プロジェクト(日本の伝統技術を学び、新たな物をつくる活動)」と共同で、冒険で使うナイフを製作する。チタンを使い軽量化かつ頑丈さを最重要課題とした。南極に向け学生たちと年々改良を重ねている。



常設展示・写真展



秋田大学での展示一部

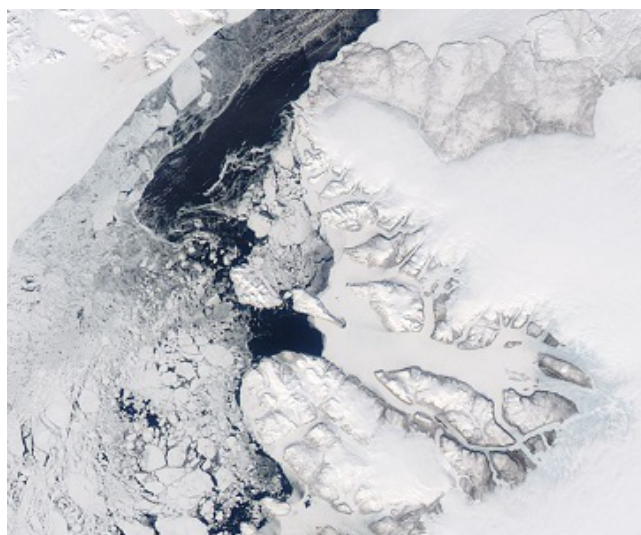


白瀬南極探検隊記念館での展示一部

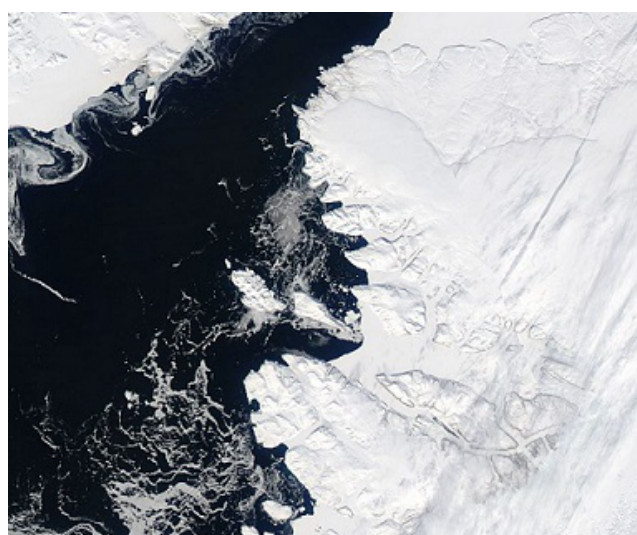
■常設展示

秋田県秋田市にある母校国立秋田大学校内インフォメーションセンターに、写真と冒険装備の常設展示
秋田県にかほ市にある白瀬南極探検隊記念館に写真の常設展示

2016 年の海氷の状態について



衛星による赤外線写真(2015 年 5 月 5 日)



衛星による赤外線写真(2016 年 5 月 9 日)

グリーンランドは温暖化が一因による海氷減少の煽りを特に受けている国ではあるが、2016 年春は例年に比べても 1 ヶ月以上早い解氷だった。地元住民も口を揃えて、こんなに早く溶けるのは見たことがないという程であった。

上載は衛星写真による比較である。白い部分が氷、黒い部分が海水と考えて頂きたい。一目見ただけでもいかに氷が少ないか分かって貰えるだろう。逆に積雪が異常に多かったので内陸は白いのが見てとれる。積雪が多いという事はソリを引くのが大変になるという事を意味しており、4 月・5 月に積雪の中でソリを引くのは大変な重労働であった。今回は海に落ちた事により時期を逃し、南下ルートが取れなかったが、元から危険であるルートであるので、墜落しないにしても復路を歩いて戻ってくる事は不可能であった事が予想される。ただ解けゆく氷と行動していたので、氷については身を持って多くの事を学び、南極に向け得ることが多かった遠征である。